

ひとを育てる活動

SCMSI から里子 42 名の現況報告が届きました



レムエヘック小学校 3 年のチャームル。5 人兄弟姉妹の真ん中で、「探求心が旺盛」の担任評通り、2 年生の学年末は、8 教科平均が 91 点でした。



里親に宛てた自筆の手紙
「花と木に囲まれた家に、家族みんな
で住んでいます」

9 月半ばに届いた里子の現況報告は、左記チャームルを含めて計 42 名分でした。里子のカレッジ卒業や、外部のシニアハイスクールへの転出を機に支援を止めたり、里子を持たない全体支援への変更で、里子は昨年より 15 名減りましたが、今年も 95 名の皆様が、引き続き里子の学費や教師給与他 SCMSI 学校運営を支えています。

先日、改めて SCMSI 小学校の授業料他父母負担金の月額を現地に確認しました。1 年生は 195.5 べ、2-5 年生は 185 べ、6 年生は 201.5 べでした。ほぼ 400 円です。

父親は農業で、子どもが 5 人いる左欄のチャームルの場合は、月 185 べ (394 円) の免除は嬉しい特典です。一方で、2 年前に届いた小学生里子候補の中には、父母ともに公務員とか、兄弟姉妹数も 1-2 人と、特典不要と思われるケースが結構ありました。

一人ひとりの現況を確認できる年一回の里子報告は、今後の支援のヒントを探す貴重な機会となっています。

チャームルの現況報告のように、毎年届く里子の写真や手紙は、支援する里親の皆さんの継続支援のモチベーションを支え、レイクセブ町のチボリの子どもの高い就学率となって実を結んでいます。

学費値上がりを、食費の節減で何とか切り抜けます！ — アガさんの 8 月ノビシエート寮訪問報告より —

より貧しい辺境出身の学生が多い CMIP 経由のカレッジ奨学金は、月 2,300 べ年 27,600 べ (約 6 万円) と、チボリの 1,800 べより高めに設定していますが、授業料が値上がりする中、食費予算は減る一方で、親にも頼れない学生は大変です。例えば、電気工学科 3 年生のグレンフレイ (写真の左端) の昨年度の例では、授業料他校納金と教材費を差し引くと、食費交通費に充当できるのは月 790 べ/1,680 円でした。

アガさんからは、奨学生担当神父が日曜ミサに集まる市民に、「カップ一杯のお米寄付」を呼び掛けているという話も聞きました。経済格差が大きく、同時にキリスト教徒が 8-9 割を占めるフィリピンにおいて、教会のもつ富の再分配機能は重要です。「貧困学生をカップ一杯のお米で支えて！」というアピール効果に期待したいと思います。

自助努力も始まっています。広いノビシエートの空き地利用です。以前にも野菜を育てたことがありますが、CMIP 代表神父の方針に左右されてきました。現代表・マーク神父は農業が好きで、アガさん訪問時には苗畑を案内して回ったそうです。一方で、カレッジ奨学金増額には会員のご協力が欠かせません。現行の月 3,000 円に対して、新規会費は 4,000 円としたほか、月額 500 円の教育全体支援会員の増加にも努めているところです。



カレッジ奨学生とアガさん (右から 2 人目) 後列の男性は、農業指導担当エルメールさん

あしなが奨学生短信

93 号で卒業を報告したブラクール出身のパレンティノに代わり、今年度から「あしなが奨学生」になったジェイクのプロフィールや写真が届きました。幼い頃父母と生き別れとなり、叔母に育てられて大学進学を果たしたものの、その叔母も学費支援が困難になったケースです。周りに助けられて成長できたことへの感謝の気持ちから、医療技師として社会に恩返ししたいと頑張っていて、最終学年 4 年の今年、国家試験に向けて実習にも精を出しているそうです。もう一人の奨学生ロサリンと同じくビラーン民族で、出身はツピ町です。



卒業まであと 1 年となりました！ — JOFPA 基金奨学金で看護師を目指すゴルディの手紙より —

最終学年 4 年進級を前にワクワクしています。4、5 月の夏季講座は宗教と歴史だけで専門教科はなく気持ちが楽でした。6 月 6 日には新学期が始まります。卒業まで 1 年です。まだ 22 単位残っていますが、専門教科ではありません。グループの友達と卒論の資料集めを始めました。卒論は大変ですが、レイクセブの家に帰れば、両親が温かく迎えてくれて癒されます。また、父母の言葉は勉学への意欲を掻き立ててくれます。そして、何よりも皆様の支援に感謝しています。卒業式に出席いただければ嬉しいです。2018 年 5 月末、ゴルディ・マリーより

(文責:山崎)